

光政会・参政会 会派合同行政視察報告書

報告者：参政会 淵上美緒

令和5年9月25日～27日

1, 視察参加者 松本和幸 岩村龍男 淵上美緒

2, 視察先…栃木県さくら市

平成17年3月28日 氏家町・喜連川町合併により『さくら市』となる。

令和5年4月時点で43, 850人、世帯数18, 208世帯。

～視察先施設～

①さくら市役所 ②勝山公園 ③道の駅きつれがわ ④さくら市ミュージアム

3, 目的

市の木が「桜」という水俣との共通点があり、桜を活かしたまちづくりを参考にするため。

水俣の桜を復活させたい。

①さくら市役所

さくらの郷づくり事業について

～基本理念～

『人と桜、歴史文化、産業が交流する郷づくり』

～基本目標～

- ・市全体における既存桜資源の把握…令和5年度時点で延べ8,000本の桜を確認
- ・既存桜資源の保全…枯損木等の更新、再生、接木による趣旨の継続、防虫
- ・新たな桜の魅力創出…市民への苗木配布、公共施設等への植栽事業の実施
- ・市民、企業、行政との協働…桜守ネットワークとの共同活動、民間企業との環境整備(草刈り)、桜マイスター活動

ふるさと納税や桜整備の為に募金などを「さくら市桜が咲き誇り花と緑で彩る小都市づくり基金」に積み立て、桜の整備や緑化に活用している。(令和元年から積立金2億円超)

さくらの郷づくり事業の課題…害虫被害を抑える事、若者世代の関心・参加。

※2027年にさくら市で全国さくらシンポジウムが開催予定とのこと、県内初。



②勝山公園

大池、バーベキュー広場、ドッグラン、花畑を囲むようにウォーキングコースがあり、大池の水は近くを流れる鬼怒川からきている。



令和3年度より世界中の桜が見られる場所の整備として、さくら見本園の整備を開始。
イベント開催を想定し、キッチンカー等が置けるスペースも確保。



③道の駅きつれがわ

・施設概要 テーマ:「大正ロマン」「大正モダン」

開設時期:平成 13 年 6 月開設(平成 29 年 4 月リニューアル)

規模:全体敷地面積 18,179 m²、建物延床面積 2,536.8 m²

構造:鉄筋コンクリート造 2 階建て及び鉄骨造平屋建て

・指定管理者

株式会社道の駅きつれがわ

・委託期間

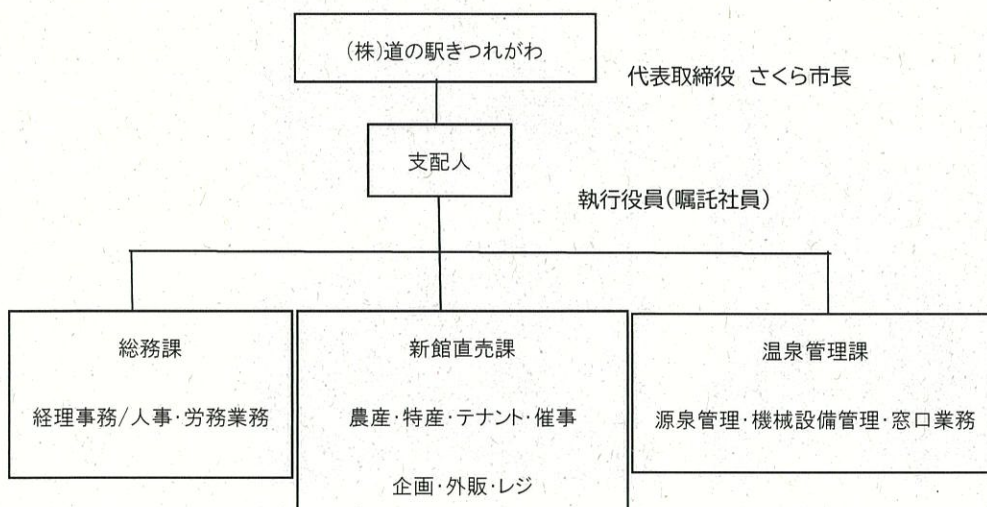
1 回目…平成 29 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

2 回目…令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日

・職員配置体制:正社員 9 名委託職員 3 名パート 17 名、合計 29 名

・令和 4 年度実績

純売上高 800,374 千円/指定管理費 57,000 千円/経常利益 6,852 千円



～道の駅内施設～

温泉、休憩スペース

…日本三大美肌湯きつれがわ温泉が楽しめる。漫画も読める広くてお洒落なスペースも。
足湯も有。

グルメ・飲食店

…手打ち蕎麦屋をはじめ、ジェラート、パン屋(名物の温泉パン)がある。

農産品・特産品 直売所

…地元農家のとれたて新鮮野菜や、道の駅オリジナル商品、地元の特産品が勢ぞろい。



④さくら市ミュージアム(荒井寛方記念館)

平成5年に「ミュージアム氏家」の館名で開館した博物館。

・荒井寛方室

…日印文化交流の先駆者として、そして文化財保存として、明治・大正・昭和の時代に日本美術館を舞台に活躍した仏画家さくら市出身の荒井寛方の画業を作品や資料を通して紹介している。

・野口雨情コーナー

…日本三大童謡詩人の一人、野口雨情の最初の妻ヒロがさくら市喜連川出身。雨情はさくら市を何度も訪れ、多くの作品を残している。その雨情の原稿や書、楽譜など全国の有数のコレクションから貴重な資料を展示している。

・鋸展示室

…さくら市出身の鋸研究家・吉川金次氏より寄贈されたコレクション約300点の鋸を展示。日本における木の文化を支えた道具「鋸」の歴史的な変遷を知ることが出来る。



※その他※

桜のデザインを積極的に使用。

桜を中心に町づくりをしているという市民の方への意識づけにとても効果があるのではと思う。

パンフレットもかなり充実している。



4, 所感

桜を活かした町づくりにかなり力を入れられており、明確なビジョン、目標達成のため優先順位をつけるなど、手広くというよりは狭く深くというような印象を受けた。

今回、同席頂いたさくら市議長も桜の郷づくり計画の中のマイスター活動に登録されているとお聞きし、先ずは自らが市の事業へ積極的に参加することの重要性を改めて感じた。

若者の関心や参加という課題に対しては、桜を守る「桜守ネットワーク」の養成講習会や若者の意見を取り入れるためのワーキンググループの開催など、若者の市政参加の場をつくり、先を見据えたこのような活動が10年後20年後のさくら市の姿に繋がるだろうと思った。

道の駅に関しては、売れなければ意味がない、ついではなく道の駅にわざわざ行くというような、道の駅の本来あるべき姿、市民が求めるものを追及されていた。

食、温泉、休憩場…と個人的にも1日中居たくなる道の駅で、視察日は平日だったがお客さんが多いのも納得だった。市民の方の感覚を大切にしまちづくりを頑張りたい。

北九州市小倉 視察研修 報告書

令和6年3月21日

報告者 淵上 美緒

視察日 2月24日(土)

視察先 北九州市小倉

① 歴史探索として小倉城の視察とまちづくりを学ぶ



② 新年早々に火災で被災地となった商店街の状況の視察と復興計画等について 北九州市議から事情を聴取する



③ 積極的な財政投資に転じる九州の3つの政令都市の状況を把握する為、 予算と組織改編について北九州市議から事情を聴取する

④ 『積極財政を推進する議員連盟』の意見交換親睦会

【所感】

観光については小倉城が当初全く価値を活かせておらず歴史的価値等が失われていたとお聞きした。現在はとても賑わっており、歴史的建造物である事は勿論の事、観光資源としても非常に重要な役割を果たしている様だった。ただ、観光地というだけあって地元資本よりも外国資本が目立っていたので、今後のまちづくりのバランスについて考えさせられた。意見交換では、財政法4条の改正やプライマリーバランス黒字化目標の見直し等、地方からどのように経済政策を変えていくか等をお話する事ができ、知見が深められた。